

日朗の寺

野手を歩く

「日朗菩薩誕生地 野手朗生寺」と染め抜かれたはっぴを着た檀信徒などが見つめる中、2月21日同寺で「百日荒行帰山奉告式」が行われました。



朗生寺で行われた「百日荒行帰山奉告式」での水行

朗生寺は日蓮宗の寺院で、鎌倉時代後期の僧・日朗ゆかりの寺とされています。

『日蓮宗事典』によれば、

日朗は「1245年、下総国海上郡能手郷に平賀有国の子

として生まれ、母は能手の領主印東祐昭の次女、のちの妙朗尼とするが、定かではない」と記載されています。

日朗は宗祖日蓮の6人の弟子のひとつで、のちに日朗門流の派祖となり教団の拡張に大きな影響を与えました。朗生寺は日朗が生まれた地に建てられた寺とされ、産湯の井戸などゆかりの史跡があります。

境内には、歴代住職の墓と並んで「日朗の顕彰碑」があります。これ

は1723年に日朗400遠忌(年忌)に日顛によって建てられました。日顛は木積村(豊栄地区)の生まれで、飯高檀林に学び、日朗の功績をしのび、朗生寺にも深くかわったのでしよう。日顛は池上本門寺(東京都大田区)の住職を歴任しました。

明治以降、朗生寺の信仰は広い範囲に及んだようで、石灯笼や石碑は、佐原町(現在の香取市)、神崎町、二川村(現在の芝山町)の人たちから寄進されています。

市内には日朗ゆかりの史跡がほかに2か所あり、1748年と1859年に建てられた供養塔があります。

帰山奉告式は、同寺の副住職が日蓮宗大荒行堂(市川市中山法華経寺)での百日間の修行を無事終えたことを檀信徒らに知らせ、併せて世界平和を祈念する行事でした。

境内にしめを張った水行場を清めたあと、9人の修行僧は声高に経を唱え、頭から水をかぶるようすを、集まった人たちは合掌しながら見つめました。

(元 市職員・依知川雅一)

問 秘書課広報聴班

☎ 73・0080